

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4092300054		
法人名	社会福祉法人 星野村福祉会		
事業所名	星寿園グループホームほしのさと		
所在地	福岡県八女市星野村10779-7 (電話) 0943-52-2266		
自己評価作成日	平成23年2月4日	評価結果確定日	平成23年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

昨年8月1日に開所しまだ半年しか経過していませんが、園の基本理念の”ご利用者様本位の介護”と言う点を一番に実践しています。自然豊かな中に施設があり、そんな中ゆっくりと時間を過ごし、家庭的な雰囲気の中でご利用者様、ご家族、職員が家族の様な”なじみ”の関係を築き合いながら支え、いろいろな支援をしていくように努めています。今後は、施設内・外の研修等にも積極的に参加し、認知症に対する知識や、介護の質の向上等職員育成にも力を入れていき、様々な行事を通して地域交流を図っていきたいと思います。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成23年2月18日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、山や茶畑に囲まれた静かで自然豊かな環境の中に位置し、広大な敷地に母体法人の関連事業所が隣接されている。近隣には温泉や公園があり、利用者のドライブコースとなっている。共用空間は広く、中庭にはウッドデッキが設置され、利用者は季節を感じながらゆったりと思いおもいに過ごしている。代表者、管理者及び職員は日々研鑽し、利用者本位の支援の実践に努め、利用者の穏やかな表情につながっている。利用者、家族等の希望や意見等を運営に活かす等、今後更なる発展が期待される事業所である。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中の”利用者様本位の介護”と言う事で、ご利用者様のペースに合わせた介護を実施するように心掛け、”地域に求められる介護に取り組む”事を職員が自覚している	法人理念に地域密着型の視点が含まれ、理念として実践している。管理者と職員は、地域との交流を深めるよう取り組んでいる。	現在行われている地域に密着した利用者のケアの視点をふまえた理念を事業所独自でつくりあげ、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげてほしい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開所して日が浅く日常的な交流を行うまでにはまだ至っていないが、敬老会、クリスマス会には慰問に来て頂いている	敬老会等の地域行事へ参加し、また事業所で行うクリスマス会等に地域住民を招待する等、地域との交流に努めている。知人が立ち寄り遊びにくる等、地域の人々と日常的に交流している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開所して日が浅くまだ実践活動するまでに至っていないが併設の施設を通し支援方法等地域の方々に向けている	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在までに2回実施 会議では利用者様の生活状況や活動、取り組み等を報告し、出席者の方から助言を頂きサービスの向上につなげている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、利用者やサービスの実際を報告している。家族会結成について等、今後の事業所の運営について協議し、委員から意見をもらい、検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への案内をして出席して頂いて、サービス向上についての助言を頂いている	管理者は、日頃から行政窓口へ出向き、また電話で連携を図り、事業所の現状報告・相談等を行い、協力関係を築き、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はおこなっておらず、日中玄関の施錠もしていない 施設内の勉強会に参加し身体拘束をしないケアについて学びマニュアルを作成している	身体拘束に関するマニュアルがある。一部職員は身体拘束に関する内部・外部研修に参加している。パンフレットがある。居室及び玄関は施錠していない。職員は利用者の外出傾向を把握し、職員間で見守り、声かけをしている。地域住民にも理解を求め、見守り、声かけや連絡をしてもらえ関係を築いている。	今後、より一層身体拘束に関する理解を深めることができるよう、全職員が身体拘束に関する内部・外部研修へ参加する機会を設けてほしい。研修記録等は、職員がいつでも確認出来るよう事業所で保管してほしい。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の勉強会に参加し学ぶ機会があり、高齢者虐待防止についてマニュアルを作成している		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内・外の勉強会に参加し、必要に応じ支援を行い、成年後見制度を活用された実績がある	一部職員は、権利擁護に関する内部研修に参加している。研修資料は、隣接の母体法人で保管している。利用者・家族等へは、制度について特に説明をしていない。	制度について、利用者・家族に周知を図る為にも、利用開始時等に情報提供をしてほしい。また、全職員に対して、権利擁護に関する内部または外部研修への参加の機会を設けてほしい。研修記録等は、職員がいつでも確認出来るよう事業所で保管してほしい。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族と読み合わせを行い一項目ずつ確認してご利用様、ご家族には納得した上で契約を行う様に努めている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしたり、運営推進会議に出席して頂く様に呼び掛けして、ご意見、ご要望等聴く機会を設けている	利用者・家族等の意見は、意見箱を設置し、また、日々のケアの中や家族来訪時等に積極的に声かけして聴取するよう努めている。希望にそって入浴方法を見直す等、運営に反映させている。事業所以外の第三者相談窓口は、利用開始時に説明している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ケア会議を開き意見交換を行いサービスの向上や業務改善に努め、伝達ノートや申し送り時に情報の共有を行っている	自己評価は、管理者と計画作成担当者で取り組んでいる。職員の意見は、ミーティングや会議時及び個別に聴取する機会を設け、献立を見直す等、運営に反映させている。	自己評価は、全職員で話し合い、取り組んでほしい。
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議の時や個別の聞き取り等から職員の意見を聞き、できるだけ働き易い環境作り心掛けている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用については、性別、年齢等の制限はしておらず、日頃から職員からの意見が出し易い様に環境作りを心掛けている</p>	<p>法人代表者は、職員の募集・採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、配置・昇進等についても差別なく、誰もが安心して働ける職場環境を目指している。</p>	
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>施設内の勉強会に参加し学ぶ機会があり、オリエンテーション時に人権の尊重については学んでいる</p>	<p>一部職員は、人権に関する内部研修に参加している。研修記録等は、隣接の母体法人で保管している。</p>	<p>全職員に対して、人権に関する内部または外部研修への参加の機会を設けてほしい。また、研修記録等は職員がいつでも確認出来るよう事業所で保管してほしい。</p>
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設内の様々な勉強会に参加し学ぶ機会がある為参加の呼び掛けを行っており個別に指導行う場合もある</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>施設内の勉強会に参加し、又他施設職員と交流する場にも参加している 他施設からの見学も受け入れて情報交換行いながらサービスの向上に努めている</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご本人様の話しを傾聴し不安や要望等聞き取るように努め安心してサービスを利用してもらえる様に配慮している</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居される前に必ずご家族と面談しご家族の不安や要望を聞く様に努めている</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族と面談を行い事業所が提供できるサービスについて話し合い納得頂いた上で契約を行う様にしている又他の事業所の案内や紹介を行う場合もある		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限りご本人様のご意向に添う様に努め一緒に片付けを行う等の作業しながら共に支え合う関係を築いている		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の生活の様子を面会に見えられた時電話があった時等報告し電話ではご本人様と直接会話して頂く時もある		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出援助でまつり見学に行かれたり支援を行っている	管理者や職員は、利用者の馴染みの人や場所について把握している。馴染みの美容室の利用や友人と共に過ごす時間をつくる等、これまでの関係が途切れないよう支援に努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が日頃からご利用者様同士の人間関係を観察し把握しているまたトラブルが生じない様に職員が間に入り働きかけを行っている		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された方やそのご家族から相談があれば支援は行う		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃から職員はご本人様の言動や行動から思いを汲み取る様に努めている	職員は、日々の関わりの中で利用者に声をかけ、思いや希望、意向の把握に努めている。利用者の言葉や表情、行動等から利用者の真意を推し測ったり、それとなく確認し、希望や意向に副ったケアに努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントで必ず生活歴や環境等についての情報収集を行う又入居されてからも疑問点や気付いた点はお尋ねして必要な情報を頂く様に努めている		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中でご利用者様の様子を観察し過ごし方や体調等について把握しておき気付いた点は記録に残し情報の共有に努めている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケア会議を開き各担当者よりご利用者様についての様子や状況を報告し聞き取りしながら、又ご家族にもご要望等お聞きしながら介護計画の作成に繋げている	利用者、家族、医師、職員の意見を反映した個別具体的な介護計画を作成している。3ヶ月に1回モニタリングを行い、状態の変化に応じて、現状に即した介護計画を見直している。介護計画作成後は、家族等から了承した署名・押印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等個別に記録に記入し情報の共有を実施しており、これらの記録を基に介護計画の見直しに活かしている		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族の希望や状況に応じ外出支援や食事サービス等を提供している		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出掛けての利用は実践はできていないが地域の理美容室の方に来て頂き支援行っている		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族の希望に合わせかかりつけ医院の受診を行い受診結果は必要に応じご家族に連絡している	本人及び家族等の希望を大切にし、今までのかかりつけ医や事業所の協力医での24時間体制の受診を支援している。受診結果については、その都度、家族等へ報告している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師を配置している為相談、助言を求める事ができ又併設の施設の看護師にも相談、助言の協力を得る事ができる		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は必要な支援方法や情報を病院に提供している又入院中は病院を訪れ退院後の生活について話し合う様にしている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に事業所のできる事を説明し、重度化して対応困難については理解頂いていると思われ、重度化した場合は協力機関と連携をとり、支援行っている	重度化や終末期のあり方について、事業所の方針等、今後の検討課題である。	重度化や終末期の方針については明文化し、家族・本人の意向を確認しながらその都度話し合い、医療関係者ならびに全職員で方針を共有し、支援してほしい。
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルは作成しているが訓練、研修に至っていない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在までに1度火災訓練を実施し消防署からの助言頂いている 災害時には併設の施設と連絡、協力体制築いている	消防署の協力を得て、避難訓練を実施している。開所時に近隣住民へ災害時の協力依頼をしている。非常用の備品等は、隣接の母体法人に準備をしている。	災害時におけるマニュアルを作成し、避難訓練は最低年2回実施してほしい。また、実施する際は運営推進会議を通じて地域住民へ参加協力を呼びかけ、災害時対策に関する理解を求め、協力体制を築いてほしい。災害に備えて、事業所内に非常用食料・飲料水・備品を準備してほしい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	オリエンテーション時に「倫理・法令遵守」「接遇」について学び、ご利用者様の人格を尊重した声掛けをする様に努めている	職員は、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう声かけや対応に配慮している。内部研修を実施し、管理者等は日常的な確認と指導を行う等、職員の意識向上を図っている。研修記録等は、隣接の母体法人で保管している。	研修記録等は職員がいつでも確認出来るよう事業所で保管してほしい。
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択事項に関してはご利用者様に判断して頂く様に努めている		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃からご利用者様の意見を尊重しその方のペースに合わせた支援を行っている		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装の声掛けやお化粧の支援は行っている		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一緒に作っていないが食べる時は一緒に食べ時間を共有し片付けも一緒に行っている	利用者と職員は、同じ食事を会話を楽しみながら一緒に食べ、食後は片付けをしている。献立に利用者の嗜好を反映している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分はおやつや食事の時摂取して頂きいつでも摂取できる様にしている		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア、義歯洗浄は必ず行っている		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自分で排泄困難な方でも排泄のサインや時間を把握し声掛けによるトイレ誘導を行いトイレで排泄して頂く様にしている	排泄チェック表を作成し、職員は利用者一人ひとりのサインを把握している。職員は利用者にさり気なく声をかける等し、トイレでの排泄の自立にむけた支援を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から排便チェックを行っており牛乳を摂取して頂いたり主治医へ相談し排便コントロールを行っている		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴拒否みられる方でも声掛けの方法やタイミング等工夫し入浴して頂ける様に努め急な時でもいつでも入浴できる準備はできている	大まかな入浴時間等の設定はあるが、利用者の希望に合わせて柔軟に対応し、入浴できるよう支援している。入浴拒否する利用者には、声かけやタイミングを計り、入浴剤を使用する等して、入浴を楽しめるよう工夫している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日頃から無理な声掛け等はせずご本人様のペースで生活して頂ける様に努めている 休息されたい時は基本休んで頂いている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を綴り職員がいつでも確認できる様にしている。薬の変更があった場合は連絡ノートに記入したり口頭で申し送り共有に努めている		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の後片付けとしてお茶碗拭きやテーブル拭き、又洗濯物の片付け等一緒に行っている		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は基本的には行事や個別支援の中で行っている	利用者の体調や天候に配慮し、散歩、買い物、紅葉を観に行く等、利用者の希望に副って戸外に出かけられるよう支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には預かり金として預かっているがご本人様は所持されていない		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時はいつでもご家族に電話ができ又手紙のやり取りもできる様に支援している		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感に配慮し行事等のディスプレイを心がけソファでゆっくりくつろげる様にしている	共有の空間は、利用者が制作した折り紙や利用者の写真を飾る等し、家庭的雰囲気配慮している。光の強さ等はカーテンで調節し、テレビの音や声の大きさにも配慮している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事フロアで椅子に座ったりソファーに座られたりしながらご利用者様同士で過ごす事ができる		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の物は全てご利用者様が自由に持ち込まれてあり落ち着いた環境の中で過ごされている	居室には、ベッド、テーブル、椅子、テレビ、時計、鏡、位牌、写真等、思いおもいに持ち込み、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の動線上に転倒につながる物がなにか検討し事故防止に努めている又ご利用者様の生活リハビリを職員が声掛けしながら一緒に行い自立した生活が送れる様に支援を行っている		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中の”利用者様本位の介護”と言う事で、ご利用者様のペースに合わせた介護を実施するように心掛け、”地域に求められる介護に取り組む”事を職員が自覚している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開所して日が浅く日常的な交流を行うまでにはまだ至っていないが、敬老会、クリスマス会には慰問に来て頂いている。個人的な交流として1名地域の敬老会に招待され参加している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開所して日が浅くまだ実践活動するまでには至っていないが併設の施設を通し支援方法等地域の方々に向けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在までに2回実施 会議では利用者様の生活状況や活動、取り組み等を報告し、出席者の方から助言を頂きサービスの向上につなげている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への案内をして出席して頂いて、サービス向上についての助言を頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はおこなっておらず、日中玄関の施錠もしていない 施設内の勉強会に参加し身体拘束をしないケアについて学びマニュアルを作成している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の勉強会に参加し学ぶ機会があり、高齢者虐待防止についてマニュアルを作成している		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内・外の勉強会に参加し、必要に応じ支援行い成年後見制度を活用された実績がある		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族と読み合わせを行い一項目ずつ確認してご利用者様、ご家族には納得した上で契約を行う様に努めている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしたり、運営推進会議に出席して頂く様に呼び掛けして、ご意見、ご要望等聴く機会を設けている		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ケア会議を開き意見交換を行いサービスの向上や業務改善に努め、伝達ノートや申し送り時に情報の共有を行っている		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議の時や個別の聞き取り等から職員の意見を聞き、できるだけ働き易い環境作りに関心を持っている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用については、性別、年齢等の制限はしておらず、日頃から職員からの意見が出し易い様に環境作りを心掛けている		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内の勉強会に参加し学ぶ機会があり、オリエンテーション時に人権の尊重については学んでいる		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の様々な勉強会に参加し学ぶ機会がある為参加の呼び掛けを行っており個別に指導行う場合もある		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内の勉強会に参加し、又他施設職員と交流する場にも参加している 他施設からの見学も受け入れて情報交換行いながらサービスの向上に努めている		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の話しを傾聴し不安や要望等聞き取るように努め安心してサービスを利用してもらえる様に配慮している		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前に必ずご家族と面談しご家族の不安や要望を聞く様に努めている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族と面談を行い事業所が提供できるサービスについて話し合い納得頂いた上で契約を行う様にしている又他の事業所の案内や紹介を行う場合もある		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限りご本人様のご意向に添う様に努め一緒に片付けを行う等の作業しながら共に支え合う関係を築いている		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の生活の様子を面会に見えられた時電話があった時等報告し電話ではご本人様と直接会話して頂く時もある		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出援助でまつり見学に行かれたり支援を行っている。行きつけの美容室に出かけられており希望に添った支援をしている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が日頃からご利用者様同士の人間関係を観察し把握している。またトラブルが生じない様に職員が間に入り働きかけを行っている		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された方やそのご家族から相談があれば支援は行う。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃から職員はご本人様の言動や行動から思いを汲み取る様に努めている		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントで必ず生活歴や環境等についての情報収集を行う又入居されてからも疑問点や気付いた点はお尋ねして必要な情報を頂く様に努めている		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中でご利用者様の様子を観察し過ごし方や体調等について把握しておき気付いた点は記録に残し情報の共有に努めている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケア会議を開き各担当者よりご利用者様についての様子や状況を報告し聞き取りしながら、又ご家族にもご要望等お聞きしながら介護計画の作成に繋げている		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等個別に記録に記入し情報の共有を実施しておりこれらの記録を基に介護計画の見直しに活かしている		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族の希望や状況に応じ外出支援や食事サービス等を提供している		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出掛けての利用は実践はできていないが地域の理美容室の方に来て頂き支援行っている		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族の希望に合わせかかりつけ医の受診を行い受診結果は必要に応じご家族に連絡している		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師を配置している為相談、助言を求める事ができ又併設の施設の看護師にも相談、助言の協力を得る事ができる		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は必要な支援方法や情報を病院に提供している又入院中は病院を訪れ退院後の生活について話し合う様にしている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に事業所のできる事を説明し重度化して対応困難については理解頂いていると思われ重度化した場合は協力機関と連携をとり支援行っている		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルは作成しているが訓練、研修に至っていない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在までに1度火災訓練を実施し消防署からの助言頂いている 災害時には併設の施設と連絡、協力体制築いている		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	オリエンテーション時に「倫理・法令遵守」「接遇」について学び、ご利用者様の人格を尊重した声掛けをする様に努めている		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択事項に関してはご利用者様に判断して頂く様に努めている		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃からご利用者様の意見を尊重しその方のペースに合わせた支援を行っている		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装の声掛けやお化粧の支援は行っている		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一緒に作っていないが食べる時は一緒に食べ時間を共有し片付けも一緒に行っている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分はおやつや食事の時摂取して頂きいつでも摂取できる様にしている		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア、義歯洗浄は必ず行っている		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自分で排泄困難な方でも排泄のサインや時間を把握し声掛けによるトイレ誘導を行いトイレで排泄して頂く様にしている		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から排便チェックを行っており牛乳を摂取して頂いたり主治医へ相談し排便コントロールを行っている		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴拒否みられる方でも声掛けの方法やタイミング等工夫し入浴して頂ける様に努め急な時でもいつでも入浴できる準備はできている		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日頃から無理な声掛け等はせずご本人様のペースで生活して頂ける様に努めている 休息されたい時は基本休んで頂いている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を綴り職員がいつでも確認できる様にしている くすりの変更があった場合は連絡ノートに記入したり口頭で申し送り共有に努めている		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の後片付けとしてお茶碗拭きやテーブル拭き、又洗濯物の片付け等一緒に行っている		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は基本的には行事や個別支援の中で行っている		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には預かり金として預かっているがご本人様は所持されていない		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時はいつでもご家族に電話ができ又手紙のやり取りもできる様に支援している		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感に配慮し行事等のディスプレイを心がけソファでゆっくりくつろげる様にしている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事フロアで椅子に座ったりソファーに座られたりしながらご利用者様同士で過ごす事ができる		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の物は全てご利用者様が自由に持ち込まれてあり落ち着いた環境の中ですごされている		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の動線上に転倒につながる物がなにか検討し事故防止に努めている又ご利用者様の生活リハビリを職員が声掛けしながら一緒にいき自立した生活が送れる様に支援を行っている		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働けている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない